

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6・7	現状、ご利用者へ身体拘束や虐待等を行った事実はありませんが、介護事故並びに身体拘束・虐待防止委員会の設置による適切な事業所の整備。	対象が認知症及び高齢者という施設の中で、リスクが多い介護事故や身体拘束・虐待行為を防止・予防する事を前提に、提出されたインシデントレポートや介護事故報告書等の諸問題への取り組みや早期解決・実行と見直しを行う。	「介護事故リスク・身体拘束・虐待防止委員会」を設置し、挙げた事実について毎月委員会を開催し各従業員の意見をまとめ、早期に周知と取り組み・改善し、同じ誤り等を繰り返さないよう努めていく。介護事故が発生した場合においてもご家族や関係機関へ十分な説明と今後の対策を書面にまとめ、そのことを実行していく。	12ヶ月
2	13	利用者やそのご家族との関係性を良好にしていく事は良いが、従業員の勝手な判断により個人の携帯にご家族の個人情報に登録していたり、入居者への対応が不適切と思える事が多く感じ取れる。	ご利用者やご家族のそれぞれの立場を重視し、適切な対応が取れるよう指導していく。又、個人情報保護の取扱いに理解されていない従業員に対し、事業所マニュアルに沿って周知させ取扱い方を意識付けていく。	グループホームで働く従業員としての立場を弁え、従業員と利用者・そのご家族との意味を理解する為、月1回のペースで施設内研修会の開催や外部研修参加を促す。特に接遇や身体拘束・虐待の排除・個人情報の取り扱い、認知症への対応等々、勉強させ質の良い従業員へ成長させる事を急務とする。	6ヶ月
3	34	緊急時の対応マニュアルが整備されているが、利用者のケガ等への応急処置や異変・急変についての知識や対応方法に未熟な所がある。	高齢と共に認知症状により自らが訴える事が少ない利用者に対し、日頃からの一般状態等の観察力を養い、小さなSOSや症状・状態の異変でもキャッチ出来るよう又、ニーズが聞き取れるようにしていく。	緊急時の対応マニュアルが整備されている為、再度マニュアルを確認し、血圧測定や高齢者に出現する病気等の再確認及び演習等を実施して、いつ・何処でもすぐに対応できるよう、身につける。又、新人従業員の研修にも取り入れ全従業員が対応できるよう図る。	12ヶ月
4	35	防災・災害対策について訓練を開設してから1度も実施していない。自然災害発生時のガイドラインはあるものの反映されていない。	防災・災害訓練計画を立案し、計画に沿った防災訓練や災害訓練等を実施し、避難経路や消防機器の使用や留意点等を再確認していく。	ご利用者や従業員も少人数とはいえ防災や災害は何処で発生するか分からない。「いざ」という時の避難や消火設備の使用方法を熟知する。又、年2会の消防署員立合いによる防災訓練の実施の他に自主的に地震・津波、水害訓練を実施する。	12ヶ月
5	43	定時のトイレ誘導の実現が出来ていない所があり、昼夜問わず、排泄用品に排泄されている事が多い。	排泄への残存機能を見出し全従業員が定時トイレ誘導・おむつ外しを目標に自立支援を図っていく。	個人の排泄パターンをデータ化し、排泄に対する残存機能を見出しながら日中だけでもトイレで排泄できるよう、おむつ外しを実現していきます。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。